

震災伝承みやぎコンソーシアム運営 に係る意見交換会（県説明資料）

令和5年1月20日

宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課



1 震災伝承みやぎコンソーシアムの概要

官

<現状>

- ・ 伝承施設間のネットワーク構築
(震災伝承ネットワーク協議会・3.11伝承ロード)
- ・ 祈念公園の整備 (石巻南浜津波復興祈念公園参加型運営協議会)

<課題>

- ・ 震災遺構, 震災伝承施設の維持管理費用の捻出
- ・ 利用者側から見た情報の差別化の整理, 一体となった発信

民

<現状>

- ・ 3. 1 1メモリアルネットワークを中心とした民のネットワークの構築
- ・ 被災経験者による, 自らの体験に基づく語り部等を行う伝承団体の存在感の大きさ

<課題>

- ・ 次世代の伝承の担い手の育成
- ・ 継続的な伝承活動に必要な活動資金の確保
- ・ 継続的な情報の発信

県庁内でのネットワーク
(オール県庁での取組)

伝承

教育

部局間の相互連携で,
一体的な取組に

防災

環境

観光

多様な主体との
連携



<現状>

- ・ 東北大学災害科学国際研究所, 宮城教育大学等による研究
- ・ 各学校による防災教育

<課題>

- ・ 震災を経験していないこどもの増加
- ・ 知見の蓄積のための事例収集 (官民との連携)

学

<現状>

- ・ 様々な企業活動を通じた復興事業の推進
- ・ 県内外の様々な団体, 個人による震災復興に関する多大な支援

<課題>

- ・ 震災から11年を経過しての支援策の模索
- ・ 企業内BCP等、関わることでのメリットの模索

産

目指す成果

- (1) 持続的な伝承活動につながる体制の構築
- (2) 「みやぎ東日本大震災津波伝承館」の震災伝承拠点としての機能強化

1 震災伝承みやぎコンソーシアムの概要

1 概要

震災の記憶や教訓を広く後世に伝え継ぐために、多様な主体である会員同士がゆるやかに連携し、一丸となった震災伝承の取組を目指して、令和4年9月9日に設立した。 ※事務局は県とし、代表等の役員は置かない。

2 会員

- (1) 伝承団体等 27団体 (2) 学術機関等 2団体 (3) 報道機関 9団体
(4) 企業等 12団体 (5) 行政機関 20団体
計 70団体(R5.1.20時点)

※会員については随時募集！！

※会員の皆様には、日頃の活動の中で可能な範囲において、伝承の基本方針に沿って取り組んでいただく。

(主に以下ア～ウの内容 ※県「東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関する基本方針」の3本柱)

ア 震災の記憶・経験の蓄積と発信

イ 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進

ウ 多様な主体の連携による伝承の推進



多様な主体と
連携した震災伝承



3 主な活動内容

- 意見交換会、研修会等、**会員同士が集まり連携する場の構築**
- 会員間の情報共有

2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

<設立会議の概要>

<日時> 令和4年9月9日（金）午後1時～午後3時

<場所> 石巻市震災遺構門脇小学校

<内容>

- ・設立趣旨・概要の説明

- ・基調講演 「東北で歴史を語り伝え継ぐとは」

サン・ファン館 | 宮城県慶長使節船ミュージアム 館長 平川 新 氏

- ・石巻市震災遺構門脇小学校見学（入館料無料）

<参加者>

約40人



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

設立会議でいただいた主な意見

(コンソーシアムの運営主体に関すること)

- ・事務局が県としているが、事業を進めるのは県で会員は参加するだけなのか。
- ・シンポジウムや研修の企画等について、実行委員会形式で会員も運営に参加できるようにするのはどうか

(シンポジウム等の内容に関すること)

- ・様々な団体が3月は追悼行事等実施するため（特に令和5年3月11日は13回忌なので）、日程や内容等を調整してほしい。

(コンソーシアム運営費等に関すること)

- ・県の（令和5年度）伝承予算等についても、会員の意見を反映してほしい。



会員から幅広くご意見をいただくため、アンケートを実施



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査

1 アンケート期間

令和4年10月18日から11月12日まで

2 回答数

34団体

(内訳：伝承団体等 14団体，学術機関 1団体，報道機関3団体，企業等7団体，行政等9団体)

3 質問項目

問1 今年度県で計画しているシンポジウム（研修）の在り方について（内容・時期・その他）

問2 行政の事業予算化について（今後の予算化に向けた御意見等）

県の現状：ア 伝承推進事業（コンソーシアム関係、連携推進補助金等）

イ 伝承館展示管理事業（伝承館の展示運営関係）

ウ 被災地情報発信事業（ウェブサイト、SNS、広報紙Baton ほか）

エ 被災地への交流人口拡大事業（周遊促進に向けたマーケティング等 ※新規）

オ 企業向け震災伝承事業（企業向けの防災教育 ※新規）

問3 自由意見

「本コンソーシアムの取組としてこういうことがしたい」や「うちの団体で、このような取組ができる」などといったご提案も幅広くお伺いできればと考えております。



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問1-1 今年度県で計画しているシンポジウム（研修）の在り方について（内容・その他）

- 様々な意見が寄せられたが、震災伝承施設の運営手法、各団体の交流の場、伝承とは何かを考える座学、等、現在伝承に携わっている方の悩み・課題の解決の一助となるような場の提供についての意見が多かった。
- 一方、県民を広く対象としたものとすべきという意見もあった。
- 実施時期については、同様のシンポジウム等の時期等とかぶらないよう配慮を求める声もあった。

<主な意見>

- 相手方にうまく伝わるために工夫していることを、実施している団体や語り部の方に披露していただくこと。
- 2～3月は様々なイベントやセミナーがあるので、内容が被らず区別できる内容にできればいいです。コンソーシアムの性格上、3.11からの来し方行く末の絵巻物を作るみたいなイメージが理想かと。
- これまで、広島で行っている被爆体験伝承者養成事業 や、気仙沼市での取り組みなど、の実例を、佐藤翔輔先生の講話でお聞きしました。ここで、さらに、もう少し、お聞きしてみたいと思っております。行政のかかわり、予算も含めた運営の手法など、市の担当部署や、指定管理者、伝承活動者など、現場の方々の声、さらに、各首長さんも登壇頂きたいと思えます。あまり負担感がないように、主体性が持てるようなもの、が理想的だと思えます。
- 伝承とは何かを考えられる座学も体験も出来る研修も出来る塾
- コンソーシアム参加団体や企業とのアライアンスに繋がる内容等
- 各団体間の交流や情報交換ができる場、また、参画団体が集まって何かやる場
- 学官民が開催する同種のものとかぶらないよう、時期、内容を精査すべき



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問1-1 今年度県で計画しているシンポジウム（研修）の在り方について（内容・その他）

- 様々な意見が寄せられたが、震災伝承施設の運営手法、各団体の交流の場、伝承とは何かを考える座学、等、現在伝承に携わっている方の悩み・課題の解決の一助となるような場の提供についての意見が多かった。
- 一方、県民を広く対象としたものとすべきという意見もあった。
- 実施時期については、同様のシンポジウム等の時期等とかぶらないよう配慮を求める声もあった。

<主な意見（続き）>

- 一般の県民の方に届くような内容が良い
- コンソーシアムのような産官学民が集う場や実行委員会形式で「在り方」を検討する手法
- シンポジウムの目的を明確にしてもらえると良い。もし、宮城県全体の伝承活性化が目的であれば、今年度に無理矢理開催しない方が、次年度以降により良い展開につながるのではないかと
- 震災伝承施設運営上の課題や伝承活動について課題に感じていることなど各団体が共有する機会
- 伝承活動に従事する若年層向けの勉強会の開催。開催地は毎回被災沿岸被災地を持ち回りで、各地の伝承活動を習得できるように



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問1-2 今年度県で計画しているシンポジウム（研修）の在り方について（時期）

- 2月上旬；9 2月中旬；6 2月下旬；9 3月上旬；1 3月中旬；7 3月下旬；9
（複数回答あり）
- その他、8月など3月周辺という時期にこだわらず実施すべきという意見もあった。

<対応案>

- 当初、開催予定であったシンポジウムについては、会員団体が実施しているシンポジウム等とのすみ分けを図るため、今年度は開催しない。

主催団体	名称	時期・場所	主な内容
(公社) 3.11メモリアルネットワーク	第5回東日本大震災伝承シンポジウム—福島から考える 伝承の未来—	令和5年2月18日（土） 13：00～17：00 福島県富岡町	第1部 話題提供「福島における伝承人材育成の取り組み」 第2部 パネルディスカッション パートI「学校・地域で伝承の担い手を育むために」 第3部 総括
東北被災地語り部フォーラム 実行委員会	東北被災地語り部フォーラム	令和5年2月26日（日） 気仙沼市	①基調講演 ②パネルディスカッション ③語り部座談会
仙台市	仙台防災未来フォーラム2023	令和5年3月4日（土） 仙台国際センター	①発表、ワークショップ ②ブース展示、ポスター展示 ③その他仙台市が主催するプログラム
世界防災フォーラム事務局	第3回世界防災フォーラム/防災ダボス会議	令和5年3月10日（金）～ 3月12日（日）	各種セッション等（3/12県主催セッションあり）
石巻市	石巻防災・震災伝承のつどい（仮称）	令和5年3月25日（土）石巻市内予定	「ともに語ろう ふるさと・命・未来」をテーマにステージ発表及び展示ブースを設け、各団体等の紹介なども行う。

2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

<対応案（続き）>

- 今年度はまず、会員同士の交流に重点を置くとともに、コンソーシアムのあり方について、会員間の合意形成を図る場としたい。
- 本日の意見交換会のほか、3月に以下のような会議を開催したい。（2月～3月上旬は各会員が様々な伝承行事等を実施しているため）

<次回の開催概要（案）> ※幅広くご意見をいただけますと幸いです。

（1）日時 令和5年3月下旬（3月22日（水）～24日（金）のどこか1日を想定）

（2）場所 県内

（3）内容

- ①県の令和5年度震災伝承施策の説明（市町村等の施策を含む）
- ②令和5年度のコンソーシアムの活動内容等
- ③令和4年度震災伝承連携推進事業補助金採択団体からの事例発表



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問2 行政の事業予算化について（今後の予算化に向けた御意見等）

- 震災遺構に関する経費や情報発信強化、既存の団体の支援の拡充予算に関する意見が多かった。
- みやぎ伝承マップの作成や防災教育と交流人口をからめた予算の要望など新たな視点からの意見もあった。

<主な意見>

- 「行政だけ」の取り組みではなく、民間や他地域との連携により推進してゆく方が伝承活動の底上げにも、宮城県の評価にもつながる。
- 市町村の震災遺構・伝承施設を支える予算
- 頑張って継続してきた団体、個人へ事業予算を充てることを希望
- 復旧や復興に限らず、工場進出や店の出店など被災地でおきている話題も含めて、情報発信を強化して欲しい。
- 視察調査した上で、みやぎ伝承マップ(仮称)の作成。
- 小中学校等の教育機関への震災伝承事業（出前授業のようなかたちで防災教育・震災について触れる機会をつくる）、震災伝承・防災イベントの開催
- 震災アーカイブを活用し、防災教育や交流人口の拡大に向けた事業に対する支援
- 伝承を持続的で広がりがある県民総参加の取り組みとするには何が必要なのか、もう一度しっかり立て直す必要がある。コンソーシアムがさらに基盤を持つ推進体として発展するような展望をもって、予算化に臨むべき。
- 地域の語り部の育成、交流人口拡大につなげることができるよう、クオリティを上げていく取組が必要。

2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問2 行政の事業予算化について（今後の予算化に向けた御意見等）

- 震災遺構に関する経費や情報発信強化、既存の団体の支援の拡充予算に関する意見が多かった。
- みやぎ伝承マップの作成や防災教育と交流人口をからめた予算の要望など新たな視点からの意見もあった。

<主な意見（続き）>

- 行政サイドに問い合わせのあった市町村をまたぐ案件を、会員と柔軟に連携を取りながら効率の良い、的確な回答を得られる仕組み
 - 例) 伝承施設や語り部の周遊コースの提案。
 - 例) 語り部として活動したいがどこにどう問い合わせたらよいかわからない。
- 情報発信について、コンソーシアム専用のHPやSNS、広報誌等で各団体の取組や施設を効果的に発信できる仕組みの構築



3月の会議で令和5年度予算内容について報告予定



2 震災伝承みやぎコンソーシアムの運営等

会員からのアンケート調査結果

問3 自由意見

- 各団体から様々な伝承活動について、記載いただいた。
- 企業から伝承に協力していただける可能性がある。

<主な意見>

- 以下取り組みに対しお手伝い可能（一般社団法人日本自動車連盟宮城支部）
 - ① イベントの募集・実施（主催者が普段施設にて実施している内容をJAF会員に実施頂く）
 - ② スマートフォン向けスタンプラリー企画
 - ③ 交通安全に関する講習会
- 観光と連携した事業の実施など震災復興に閉じない事業展開ができればよいのではないか。



各会員の伝承の取組状況等については、この後のグループワークにおいて、情報共有していただきたい！



以下参考資料



3 - 1 県の震災伝承施策の進捗状況

東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関する基本方針 (2021.4策定)

■ 基本理念

東日本大震災の経験や復旧・復興の過程，そこからの教訓を
現在（いま），そして未来に伝え続ける。
一人ひとりがかかけがえのない大切な命を守り，
災害時に「自らの命を守る行動」が実行できる社会をつくる。

■ 伝承に関する3つの柱

- ① 震災の記憶・経験の蓄積と発信
- ② 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
- ③ 多様な主体の連携による伝承の推進

東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝承し，国内外に広く発信していきます。



3 - 2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

令和3年6月6日 みやぎ東日本大震災津波伝承館 開館



【所在地】宮城県石巻市南浜町2丁目1-56

【開館時間】9:00~17:00

【休館日】毎週月曜(祝日の場合は翌日) ※GW期間は除く

年未年始(12/29~1/4)

※ただし、毎月11日は曜日・祝日に関わらず開館

【来館者累計 (R4.12末時点) 83,304人】



3 - 2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

① つなぐ記憶

津波の歴史や震災前後の記憶を通して、被災の大きさを伝えます。



② 東日本大震災を知る

東日本大震災の概要と県内被害を伝えます。



③ シアター「くり返さないために」

科学的視点とリアルな映像で津波の恐ろしさを伝えます。



④ 津波から命を守る

津波の歴史や津波のメカニズムを紹介するほか、被災時の人々の証言等を紹介します。



⑤ ともにつくる復興

震災を経て生まれた、まちを元気にし、立ち上がらせる取組や施設、団体を映像で紹介します。



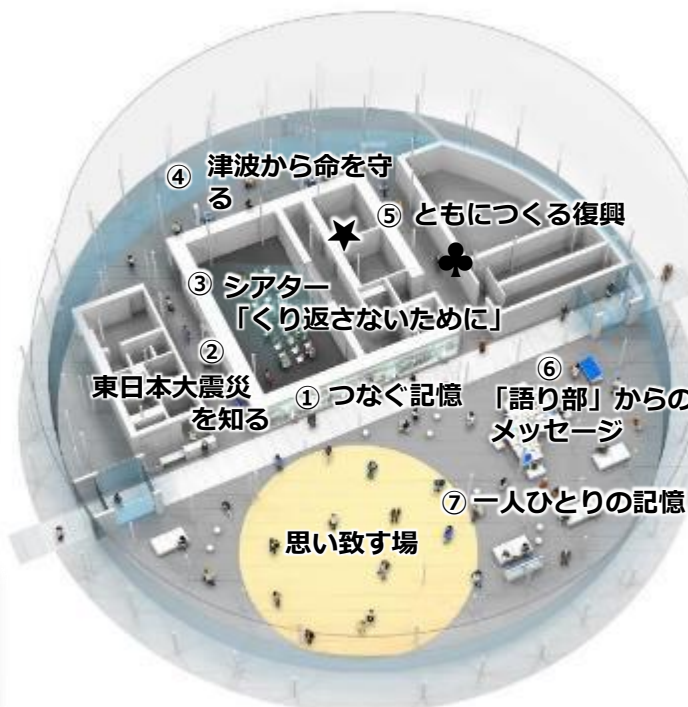
⑥ 「語り部」からのメッセージ

県内各地の語り部活動の様子を映像で紹介しします。



⑦ 一人ひとりの記憶

震災当時から現在に至るまでの様々な立場・視点の証言を映像で紹介しします。



★東日本大震災・緊急対応の記録

【制作：国土交通省 東北地方整備局】

発災以降の緊急対応の記録と被災物を通じて津波の脅威を伝え、頻発する自然災害への備えについて考えるきっかけを提示しします。



♣ 3. 11 伝承ロード

【制作：国土交通省 東北地方整備局】

東日本大震災の実情と教訓を学ぶことが出来る「震災伝承施設」を紹介しします。



A 来館者等への県内伝承施設の案内及び期間限定の展示等

- ①「語り部からのメッセージ」等常設展示の解説を通じ、来館者に県内で活動する語り部や県内の震災伝承施設、震災遺構を紹介する。
- ②常設展示スペースにおいて、期間限定展示を実施
 - イ 県内震災遺構を紹介するパネル設置等（今後実施）
 - ロ 県内震災遺構の視聴VRグラス設置（右写真）
 - ハ 防災学習用PC、ディスプレイ設置（今後実施）
- ③伝承団体、伝承施設のパンフレット・冊子等を館内に配架し、来館者が自由に閲覧できるようにする。
 - ※震災伝承広報支援補助金の創設
 - 館内に配架するパンフレット等作成費用について、県で補助する。（上限10万円，補助率1/2）
- ④モニターを活用した案内、来館者が他の施設等を検索できるパソコンの設置
 - ※NHKと連携し、NHKラジオで放映された証言音声パソコンに格納
- ⑤SNSを活用し、当館や他の施設の積極的な紹介





みやぎ東日本大震災津波伝承館公式SNS

ぜひフォローお願いします！



3-2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

B 東北大学災害科学国際研究所等と連携した様々な企画の実施

- ① 県内語り部講話（毎週土曜日 1日2回ずつ）
（3.11みらいサポート主催の語り部講話を含む）
※R4.7.23～R5.3.4の間実施
※語り部を公募、今まで語り部経験がない方の掘り起こしも期待
⇒来館者を他の震災伝承施設に誘うゲートウェイとしての役割



3-2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

B 東北大学災害科学国際研究所等と連携した様々な企画の実施

②企画展示（年2回）

・他の伝承施設や伝承団体が保有するパネル等を活用して実施

1回目：8/2～8/31

「3.11現場の真実×心の真実 結(ゆい)

～消防・命のプロが見た東日本大震災」

※仙台市の協力（せんだい3.11メモリアル交流館の過去の企画を借用）



3-2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

B 東北大学災害科学国際研究所等と連携した様々な企画の実施

②企画展示（年2回）

・他の伝承施設や伝承団体が保有するパネル等を活用して実施

2回目：10/1～10/30

「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館パネル展」

※気仙沼市の協力

（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の過去の企画を借用）



3-2 みやぎ東日本大震災津波伝承館

B 東北大学災害科学国際研究所等と連携した様々な企画の実施

③活性化事業

イ 親子向けイベント (ぼうさいキッズパーク)

ロ 小中高生解説員の募集 (随時募集中!) ※募集の上,随時伝承館で活動してもらう (1名修了予定)

ハ 3.11げんば探訪 (年4回; 次回 3/5 (日))

※復興過程の現場における様々な活動について,主に実務者による講話を行う。

ニ 3.11まなび直し塾 (年4回; 次回 2/5 (日)) ※大学教員等専門家による講義



ぼうさいキッズパーク
子どももおとなも一緒に楽しみながら学べる!

令和4年11月23日(水)
第1部 11:00~12:00【定員20名】
第2部 13:00~14:00【定員20名】

会場: みやぎ東日本大震災津波伝承館
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1

申込方法: 伝承館ホームページから申し込み
お申し込みは11月17日(木)まで(先着順)です。
お申し込み: 伝承館ホームページから申し込み
お申し込み: 伝承館ホームページから申し込み



3.11げんば探訪
記憶と歌謡を伝えるべく

YouTubeでも配信!

9/4・11/6・1/8・3/5
第1日曜日 13:30~14:30

会場: みやぎ東日本大震災津波伝承館
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1

YouTubeでも配信!



3.11まなび直し塾
復興と防災について
「復興と防災について」を
最新の研究から学びましょう

8/7・10/2・12/4・2/5
第1日曜日 13:30~14:30

会場: みやぎ東日本大震災津波伝承館
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区中央1-1-1

YouTubeでも配信!

3-3 みやぎ災害伝承ポスターコンクール

東日本大震災から11年が経過し、児童・生徒においては、震災を知らない世代が増加してきている。このため、東日本大震災をはじめとする過去の災害の記憶と教訓に触れ、自分事として捉えていただく機会を創出することで、次なる災害が起きた際に、命を守る行動がとれることを目指し、「みやぎ災害伝承ポスターコンクール」を今年度にはじめて実施

1 募集期間

令和4年6月29日（水）から9月16日（金）まで

2 対象者

県内の小学生・中学生・高校生

3 テーマ

「災害伝承」をテーマとし、次の内容を盛り込んだ作品

- ・過去に宮城県内で発生した自然災害（地震、津波、台風、豪雨、洪水等）について 認識を深めるもの
- ・災害への備え（備蓄・避難の重要性、防災学習、家庭・地域での話し合い等）を呼びかけるもの



3-3 みやぎ災害伝承ポスターコンクール

4 応募状況

部門	校数	応募作品数
小学生	24校	57点
中学生	9校	25点
高校生	3校	10点
合計	36校	92点

5 受賞作品

部門	最優秀賞	特別賞※	優秀賞	佳作	合計
小学生	1点	1点	2点	9点	13点
中学生	1点	1点	2点	6点	10点
高校生	1点	1点	2点	6点	10点
合計	3点	3点	6点	21点	33点

※（一財）3.11伝承ロード推進機構の協力のもと、特別賞を設けました

<最優秀作品>



聖ドミニコ学院小学校2年
増村 青さん



石巻市立河北中学校2年
岩瀬 かなさん



宮城県宮城野高等学校2年
馬場 祐澄乃さん

3-3 みやぎ災害伝承ポスターコンクール

6 今後の予定

(1) 作品展示

展示期間	展示場所	備考
令和5年1月25日(水)	岩沼市民会館	未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム 佳作を除く入賞作品のみ展示
	岩沼市里の杜1丁目2-45	
1月28日(土) ～2月19日(日)	みやぎ東日本大震災津波伝承館	月曜休館 <u>応募作品すべてを展示</u> ※
	石巻市南浜町2-1-56	
3月4日(土)	仙台国際センター	仙台防災未来フォーラム <u>応募作品すべてを展示</u> ※
	仙台市青葉区青葉山無番地	
3月10日(金) ～3月12日(日)	仙台国際センター	世界防災フォーラム <u>応募作品すべてを展示</u> ※
	仙台市青葉区青葉山無番地	

※入賞作品以外の応募作品は、原版ではなく、印刷画像による展示

(2) 入賞者授賞式

① 日時 令和5年1月29日(日) 午前11時から正午まで

② 場所 みやぎ東日本大震災津波伝承館

③ 内容

ア 賞状等授与

イ 審査員代表から講評

ウ 若手語り部からの語り部講話 (みやぎ東日本大震災津波伝承館解説員 阿部任 氏)



3 - 4 みやぎ震災伝承連携推進事業補助金

持続的な震災伝承の推進体制を構築するため、伝承団体等が実施する他の参考となりうるような先進的な震災伝承の取組に対し、その経費を補助するもの

- 1 募集期間 令和4年7月22日（金）から8月26日（金）まで
- 2 対象事業 他の模範となるような先進的な伝承活動で次の1つ以上に該当するもの
 - (1)震災の記憶・経験の蓄積と発信
 - (2)伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
 - (3)多様な主体の連携による伝承の推進
- 3 対象者 県内に所在し、本補助金の趣旨に合致する活動を行う団体 ※詳細はHP参照ください
- 4 補助限度額（補助率） 10万円以上150万円以内（10／10）
- 5 対象経費 補助対象事業に直接係る経費で次のもの
人件費，諸謝金，旅費，消耗品費，光熱水費，広告費・印刷製本費，通信運搬費，賃料及び施設使用料，行事保険料，その他県が必要と認める費用



3 - 4 みやぎ震災伝承連携推進事業補助金

6 応募総数 12者

7 採択総数 6者

No	事業者名	事業名
1	一般社団法人Bird's-eye	こども防災の日をつくろう！～地域の防災人が活躍し、子供の命を守れるまちづくり～
2	公益財団法人仙台市市民文化事業団	震災伝承施設と劇場および演劇関係者の連携による演劇作品のリーディング公演事業
3	一般社団法人南三陸町観光協会	写真で会いに行く震災前の「みなみさんりく」プロジェクト
4	がんばろう!石巻の会	震災伝承を未災地にて伝える為の場づくり
5	一般社団法人岩沼みんなのアグリツーリズム & イノベーション	岩沼みんなの家のみんなの岩沼復興アグリツーリズム & 岩沼震災の語り部
6	やまもと語りべの会	山元若者防災士語り部プロジェクト

